

# 協 纂 報 日 藝

日本篆刻家協会 ニュースレター 2022.12.10 第12号  
発行 日本篆刻家協会 会長 尾崎蒼石 理事長 真鍋井蛙

日本篆刻家協会 563-0032 大阪府池田市石橋2-2-10-203 編集 常務理事 北田成磊

## 理事長挨拶

理事長 真鍋井蛙

会員の皆様には如何お過ごしでしょうか。様々な展覧会が各地で開催され、日本篆刻家協会所属の印社の活動もこのニュースレターの如く、全国各地で活発化してまいりました。十一月二十六日には大阪で中央研究会を開催し約一五〇名の会員が参加され、大印の研究が熱心に行われました。印稿の作り方、鈴印のコツ、篆刻作品のまとめ方等々：「えっ！こんなところまで？」と考えを新たにされた方々も多くあつたと思います。中央研究会については次号にて報告予定です。

とにかく二〇二三年も会員の皆様が楽しく活動できます日本篆刻家協会を目指して努力してまいります。

## 二〇二四年（令和四年）月例課題一覧

月	課題	出典	意味
一月	五福祥来	書経	五つの幸福がめでたく集まってくる
二月	君子林	漢書	徳の高い人の集まり
三月	百卉含英	馮衍	多くの花が見事に咲く
四月	春暉	孟郊	春の日光のかがやき
五月	燕雁代飛	淮南子	春燕は南から飛来し雁は北へ去る
六月	穆然	史記	静かなさま
七月	知一不知二	莊子	物事の一面のみを知って他を知らない
八月	枯木心	禪語	無心なること
九月	映空	杜甫	空に映る
十月	一輪池上明	袁枚	一輪の月が池面に明るく輝きわたる
十一月	月如霜	張来	月の光が白く霜のようである
十二月	甲辰	—	二〇二四年の干支

## 徳島県立文学書道館 講演のご案内

講演内容 「書道講座 書の鑑賞」  
講師 真鍋井蛙  
日時 二〇二三年一月二十九日（日）  
午後一時三十分～三時

## 定員 申込方法

一〇〇人（申込必要）  
はがき・FAX・メールのいずれかに「書の鑑賞 希望」と明記し、参加される方の郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・年齢・電話番号をご記入の上、当館までお送り下さい。当館一階受付でも申し込めます。

※電話での申し込み受付は出来ませんのでご注意ください。  
※申込は切はありませぬ。定員に達した場合でもキャンセル待ちという形で申込が可能です。

## 問合せ先

〒七七〇-〇八〇七  
徳島県徳島市中前川町二丁目二十二-1  
電話 〇八八（六二五）七四八五  
FAX 〇八八（六二五）七五四〇  
e-mail kotonoha@bungakushodo.jp  
徳島県立文学書道館 担当 佐藤

※①会員〇〇・資格・姓号を必ず記入のこと。（未記入審査対象外）②印は一寸以内、用紙は協会指定のものに限る。③応募は各月一人一点、切は各月末必着。  
送付先 〒五六三・〇〇三二 大阪府池田市石橋二・二・一〇 牧野ビル二〇三 日本篆刻家協会「月例課題」係まで



4月課題 「取法四時」

役員  
(井谷五雲選)



彦齋



白水



江涯



容齋



葭舟

○大槻彦齋 遠藤孝人  
○川崎白水 田原興山  
○浅野江涯 松永六朗  
○木村容齋 渡邊尚石  
○平中葭舟 津田秀風  
○名倉克彦 浅野祥雲  
○安井芳泉 山吹緑  
○古野燕安 計五六人

本協会の高位に居られる皆さん、さすがにそれぞれ作風が異なっていて嬉しく思いました。トップに推した印篆白文印は逆に一見変化に乏しくも思いますが、尚に強く鋭い刻線が私を魅了しました。何であれ強い意志を持って製したいものです。

常任委員  
(出田塘葭選)



貴美子



浩二



極浦



悦治



五岳

○西岡貴美子 井上秋鹿  
○岡本浩二 池谷宝樹  
○奥島極浦 鈴木耕石  
○兼子悦治 田辺智水  
○小松五岳 白幡雪峰  
○田村極齋 伊谷昌子  
○金井福華 鈴木真壽男  
○永田乾石 計一九人

押印は篆刻にとって重要な作業ですので、充分に注意を払って下さい。白文印に印泥の少ないものが多く見られ、残念に思いました。また「取」字の誤字も数点見られました。印篆で刻す時も、まず小篆の形をよく見てから刻しましょう。

委員  
(大村雪陵選)



小舟



管玉



寛明



正甫



龍泉

○貴島小舟 山崎游石  
○中本管玉 池田敏花  
○茂中寛明 長谷川孝翔  
○境山正甫 高木啓志  
○池内龍泉 山本智子  
○尾畑翠庵 大野桃華  
○森下正義 藤田聖樹  
○藤田紅霞 計四三人

四字の課題で布字は比較的易しいが、単調になりやすく、粗強、余白、動き、強弱等をよく考えてある佳作もありました。一印のバランスが取れた字形の選出を心がけたい。押印はかすれも無くしっかりと押されており、意識が高く感じ取れました。

会員  
(奥田農生選)



瑛山



武



晶石



凌慶



哲幸

○武田瑛山 國本字  
○小出武 北出松露  
○誤晶石 浜戸三徳  
○岩本凌慶 五里厚子  
○吉田哲幸 柴田聖樹  
○秋吉隆夫 城本朴園  
○亀田孝志 遠藤幽室  
○米澤春園 計三六人

法字を簡単な法にした作品は概ね収まり良く纏まっています。繁細の濃をうけた作は他の三文字との調和に苦労されたようです。先んず他の作を参考にし、よく研究されるとうよいでしょう。

5月課題 「象形萬類」

役員  
(山下方亭選)



繁治



看雨



容齋



雄山



章石

○増田繁治 宮越素翠  
○倉野看雨 山村千秋  
○木村容齋 土井青雅  
○青木雄山 永野草翠  
○古瀬章石 田原興山  
○高谷裕風 谷板洲  
○大城孝志 川久保明  
○千歳天空 計五二人

流石に役員の方の作は見応えがありました。朱白織り混ぜた「朱三白」に象字の象形を一字入れるのは定石として纏めやすくて見栄えもよかったです。なかに類字の頁が逆の方もおられました。ご注意ください。

常任委員  
(梶川久美子選)



貴美子



悦治



極浦



喜雨



浩二

○西岡貴美子 池谷宝樹  
○兼子悦治 滝口照影  
○奥島極浦 松村信夫  
○井畑喜雨 田村福庵  
○岡本浩二 安西幸恵  
○岡崎戯石 小松五岳  
○小松五岳 稲垣竹扇  
○白幡雪峰 計三〇人

今日は安定した布字の作品が多く見られました。しかし、せがの力作も象書調が不十分のため誤字になっていました。残念です。また、奇を好んで一人悦に入っているものも有ります。今一度自分の作った印影を見直して欲しいものです。

委員  
(北田成磊選)



幸園



正義



哲舟



勝山



恵理子

○中島幸園 大塚秋露  
○森下正義 田邊進  
○内田哲舟 浦田紫斐  
○大野勝山 吉田草心  
○裕田恵理子 八木壽石  
○中本管玉 池田龍泉  
○植田杏芽 尾畑翠庵  
○山中徹人 計三七人

まず作品云々より校字と捺印にもっと注意を払うべきと考えます。特に他者と競う場ではある意味で内容以上に大切な要素です。さて作品ですが、やはり古印や古人に仿った作品の完成度が高く、「與古為徒」の姿勢が重要だと感じます。

会員  
(草田翠苑選)



松露



哲幸



凌慶



幽室



正樹

○北出松露 誤晶石  
○吉田哲幸 大野恵子  
○岩本凌慶 米澤春園  
○遠藤幽室 松本峰舟  
○林正樹 松本峰舟  
○指輪桂舟 五里厚子  
○亀田孝志 樺山実由紀  
○佐野真美 計三四人

作品の中に類が顔に、萬類象形になっているものも、又文字の統一性に欠けるものも見受けられました。印稿の段階で十分時間をかけて下さい。そして納得のいく作品を作りたいと思います。

6月課題 「放懐」

役員  
(尾崎蒼石選)



草翠



井泉



龍石



黎秀



唯文

- 永野草翠 木村容庸
- 山崎井泉 下倉通水
- 山本龍石 川崎白水
- 武田黎秀 田原貞山
- 堂守唯文 古野燕安
- 山吹嶺 中本管玉
- 平中腹舟 萬谷碧風
- 遠藤米久 計五人

課題が二字であり、割合作り易かったと思つた。また、朱白の割合は半々位であった。永野君、線の切れと軽快さがよい。山崎君、落ち着いた作。山本君、粗密のバランスがよい。武田君、漢印の半通井調がよい。唯文君、動きよ

常任委員  
(熊本夕生選)



榮子



五岳



貴美子



巖石



玄松

- 中井榮子 荒井典恵
- 小松五岳 井上秋鹿
- 西岡貴美子 池谷宝樹
- 岡崎巖石 岡本浩一
- 真田玄松 松村信夫
- 滝口照浦 田村稲蘆
- 奥島極浦 山田藤華
- 藤井彩 計三人

甲骨文字の方と文を組み合わせた「放」と、金文の「懐」を組み合わせた作品があった。他の文字との組み合わせは当然のことながら不可。また、線の弱い作品が目立った。

委員  
(田中修文選)



幸園



壽石



勝山



美舟



恵理子

- 中島幸園 尾畑翠庵
- 八木壽石 長谷川孝翔
- 大野勝山 渡會俊正
- 栗永美舟 山崎遊石
- 袴田恵理子 内田哲舟
- 田中修文 藤田紅霞
- 吉田幸心 中野桃華
- 高木啓志 計四人

誠に遺憾ながら誤字のため選外となった作品が数点ありました。字典による検字を慎重に行ってください。鈐印における印泥が厚く刻線の冴えが損なわれてしまった作品もあり残念に思いました。

会員  
(堤白遊選)



紳城



哲幸



幽篁



紅玉



昇治

- 岸紳城 稲葉碧鮮
- 吉田哲幸 高橋子路
- 遠藤幽篁 佐野真美
- 池田紅玉 松本峰舟
- 村田昇治 北出松露
- 藤田泰山 米澤春園
- 浜戸三徳 庄田真字
- 小出武 計三十七人

二字句なのでどこに空間を取って動きを出すか工夫されました。主に印象から制作されたものが多く、印の形を長方形にしたり朱文にして空間をはっきりさせたものが見られました。線の切れも良くバランスも上手に処理されていました。

7月課題 「書以筆為質」

役員  
(真鍋井蛙選)



黎秀



繁治



容庸



秀鳳



容史子

- 武田黎秀 松永六朗
- 増田繁治 田原貞山
- 木村容庸 内田真弓
- 津田秀鳳 古瀬章石
- 大城容子 中本管城
- 高野燕安 谷松洲
- 名倉克彦 高野弘深
- 平中腹舟 計四十九人

今回は五文字の印文です。ので三行にして「書」字を一行に伸ばした人がほとんどだったように思いますが、ただ検字を慎重にしていたかと思いましたが、特に「書」の二文字には奇字が多かったように思います。

常任委員  
(戸出九鷹選)



悦治



玉峯



信夫



五岳



雪峰

- 兼子悦治 金井榴華
- 川栄玉峯 井畑喜雨
- 松村信夫 井上秋鹿
- 小松五岳 西岡眞字
- 白幡雪峰 田辺碧水
- 岡本浩一 奥島極浦
- 岡谷宝樹 西島幸恵
- 高藤芳清 計二十八人

選外とさせて頂いた作品の多くは中の文字は刻していますが、外面線は機械的な直線のままです。外面線の処理は印にあって異なり非常に難しいと思いましたが、印を沢山作成し挑戦して下さい。

委員  
(中村葉舟選)



草心



叡花



玲風



勝山



滋

- 吉田草心 山崎遊石
- 池田叡花 中島幸園
- 香岐玲風 八木壽石
- 大野勝山 木村博行
- 田中滋 大崎漢白
- 池田龍泉 藤田勉
- 袴田恵理子 寺地寿和
- 尾畑翠庵 計三十五人

五文字の課題は、何行にするのか、一行に何文字で刻するか、「書」以筆、為質の三行、「書」以筆、為質の二行に佳作が多かったです。それ以外の作品は、委員出品中八割挑戦することは大切だが、文字の持つ特性を見極めることも必要。

会員  
(長谷川帰海選)



幽篁



松露



哲幸



勝竹



紅玉

- 遠藤幽篁 林正樹
- 北出松露 大喜多恵子
- 吉田哲幸 伊藤光彦
- 広森勝竹 五十里厚子
- 池田紅玉 指輪桂舟
- 岩本凌慶 松本峰舟
- 岩山焔雪 渡部雪華
- 小出武 計三十七人

最近の印材は余りよくないので彫りづらい作が多かったです。先人の作を勉強しようという一顧刻して提出するのではなく、作風を愛して数刻刻して篆刻を楽しんでください。

## 明分篆会展 二〇二二 展覧会報告

令和四年八月五日（金）～七日（日）まで、神戸・元町『みなせ画廊』において「明分篆會」初の社中展を開催し、3日間で二百余名の方々にお越しいただきました。初の社中展ということで、今回はテーマを決めず、各自自由に作品制作に取り組みました。大きな作品作りが初めての人、裏打ちから軸装までご自身で仕上げられた人など、それぞれが楽しんで出来たのではないかと思っています。次年度も更に研鑽を積んだ成果を見ていただけるよう、各自制作に励みますので今後ともご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。ご高覧くださいました多くの方々にお礼申し上げます。



▷ 会場風景

## 第十四回長修会展 展覧会報告

八月二十六日（金）～二十八日（日）までの三日間、半田市福祉文化会館にて。コロナ禍により直前で二度の延期を経ての待ち望んだ開催でした。今回は従来より広い会場に変え、研究課題である呉昌碩の模刻や臨書に加え水墨画もあり、呉昌碩の創作姿勢を追究する展示構成としました。会員の作品約百十点を展覧する大規模な展覧会となり、作品には漢文の書き下し文や解説を付けており、内容を理解できると来場者に喜んでいただきました。



▷ 会場風景

## 第四十三回 島根篆刻展 展覧会報告

島根篆刻展は第一回展を昭和四十五年に開催し、以降毎年継続開催し、今回第四十三回展を迎えることになりました。今回は会員及び公募を含め、三十八点を展示しました。また会員の共同作品「季節の暦七十二候（夏季）」を全員で分刻して、パネル仕上げによる展示および篆刻関係図書、印材、篆刻用具等を揃え展示しました。ご来場者数は新型コロナ禍で通年と比べると減少の中、今回はNHK局の紹介放送もあり前回より若干増の二二八名のご来場を頂きました。



▷ 会場風景

## 第二回川平印会展覧会報告

コロナ蔓延で控えていた、第二回川平印会社中展を九月三十日（金）から、十月二日（日）まで、名古屋市政資料館で実施しました。開催中は晴天に恵まれて暑い日が続きました。会場までのアクセスが少し不便にもかかわらず、来場者にはゆつくり鑑賞して戴けたと思います。

今回は二十一名の千文字刻を初め、各自が楽しんで制作した陶印等多数の作品を発表できました。しかし、次回への課題も見つかりました。何より大過なく無事に終えることができ会員一同ホットしています。



▷ 会員の皆さん

## 第七回有機篆会作品展覧会報告

第七回展を九月二十三日（金）から二十五日（日）までの三日間、富山県民会館 ギャラリーで開催致しました。今回は、約三年をかけて制作した正信偈の軸や「華」を集めた百花繚乱のパネル、手作りの印鈕・陶印等を展示しました。

富山祭りと重なり大勢の人が鑑賞して下さい、中には教室に入りたいと言う若い女性もあり、我々にとっては励みとなり、来年に向けて気持ちを新たにさせられる作品展となりました。



▷ 会場風景

## 第三十七回畦石舎作品展覧会報告

第三十七回『畦石舎展』が十月一日（土）、二日（日）に京都市勧業館みやこめっせ内の日図デザイン博物館で開催された。

分刻作品として仏像印を会員各人が半紙に纏め、古人の作品を追ったもの、現代中国の作品を意識したもの、さまざまな仏像印が集まった。会場では「この仏像が好きだ、あつちの仏像も面白い」という嬉しい声が聞こえた。

同時に小先生所蔵『近代文人の書簡』の特別陳列があった。会津八一や熊谷守一、梅舒適先生など、書家、篆刻家だけでなく画家や陶芸家、学者に至まで四十名の書簡が壁面に陳列され、多くの方が足を止め関心を寄せていた。どの書簡もとても自然な卒意の書で、堅苦しさを感ぜさせず、書簡の内容も興味深かった。

会期中は三〇〇名以上の方に来場いただき、多くのご批評を賜った。それらを無駄にせず次回の次回に向けて会員一同更なる力をつけていこうと思う。



▷ 会場風景

第二十五回齊平展作品展 展覧会報告

「第二十五回齊平展」は、十月一日(土)～二日(日)の二日間、大阪産業創造館三階マーケットプラザにて開催、今年「安」字の入った詩句印の展示、作品集を成冊した。また併催として大学生による「第三回蝸蚪展」および会員制作「陶印」を展示した。特別展示は明治期より昭和にかけて活躍した印人「梨岡素岳」の書および篆刻の展示も行った。コロナ渦中ではあったが、遠方より多くの観覧者にお越しいただき、盛会裡に幕を閉じることができた。



▷ 会場風景

第二十回蒼文篆会展 展覧会報告

十月二十二日(土)～二十三日(日)まで大阪産業創造館で第二十回蒼文篆会展を開催した。近年は隔年でおこなっていた本展だが、今年からは毎年開催することとなった。今回は第二十回という節目となる展覧会。全ての会員が初心に戻り、新たな一歩を踏み出す決意で作品制作をした。

会長の篆刻一点、書一点、水墨画十三点をはじめ、総勢六十七名の作品を展示した。また、特別陳列として、『開通褒斜道刻石』や『散氏盤』等の拓本を展観した。



▷ 会場風景

「一刀」・景馬全瓷刻展 展覧会報告

二〇二三年十月二十日から三十一日まで、馬景泉氏と五十嵐清氏による『現代瓦造形と建築文化展覧会』が東京国立新美術館で開催された。

屋外の展覧では、巨大な瓦のオブジェクトや瓦刻作品が展示された。その中で一番注目すべき作品は「渦」。螺旋形の瓦で瀬戸内海の渦巻きをイメージし、瓦製の海魚や漢詩漢文を刻した瓦片で渦巻きの中の世界の豊富さを表現しているという。この作品は馬景泉と五十嵐清氏の合作であり、篆刻の新たな可能性を期待させる作品であった。



▷ 屋外に展示された作品群と馬景泉氏

晋鷗来日三十周年記念  
師生書法篆刻作品展覧会報告

十一月五日、港区虎ノ門の東京中国文化センターで「晋鷗来日三十周年記念師生書法篆刻作品展」の開幕式が一五〇名を超える参加者のもと盛大に挙行された。開幕式は、晋鷗産経国際書会客員顧問の挨拶に続き、鳩山由紀夫元総理大臣がビデオメッセージをよせ、楊宇中国駐日本国大使館公使が流暢な日本語で祝辞を述べた。

一九九二年に日本に留学して以来三十年日本に在住して書画篆刻を研鑽し、今回の展覧会では大字書、写経、篆書・隸書・行書の各六屏、篆刻など多彩な作品群の展覧となった。



▷ 開幕式で挨拶する晋鷗先生

デザインとして見る篆刻の展開  
不華篆会習作展XXX 展覧会報告

不華篆会習作展XXXを令和四年十一月五日〜六日、市立伊丹ミュージアム旧岡田家住宅酒蔵（国指定重要文化財）にて開催しました。

今回のテーマは酒蔵に因んで「酒」。広々とした酒蔵・土間での開催は他展では味わえない趣となりました。展示装備が全くない中での展示には苦勞しましたが、ご来場いただいた方々には満足いただけたようでした。

例年の篆刻作品、工芸的作品に加え、各自作成の印譜を出品しました。篆刻体験（卯・肖形兎）のコーナーを設けたところ、十八人の参加があり「年賀状に押します」と好評でした。



▷ 篆刻作品展示



◁ 印譜作品  
及び  
工芸的作品

令和四年度 第九回日展 報告

会 員	尾崎蒼石
無鑑査	真鍋井蛙
入 選	井谷五雲 小朴圃 喜多芳邑 黒田玉洲
	古溝幽畦 松本雅至 田中修文
	中村葉舟 井後雅堂 関踏青
	大村雪陵 古野燕安 大原邦祥
新人選	

月例課題 成績優秀者

二〇二一年八月〜二〇二二年七月

役 員	木村容庸 (6回)
常任委員	小松五岳 (7回)
委 員	大野勝山 (8回)
会 員	吉田哲幸 (6回)

※賞品は新年総会時にお渡しします

●二〇二三年度 総会・新年会

一月八日(日) アートホテル大阪ベイタワー

※来年の行事予定の詳細は総会でお知らせします  
現在、分刻印譜の作成を計画しております

●第三十九回 日本篆刻展

併催第七回日本篆刻家協会学生展

会期 五月三十一日(水)〜六月四日(日)  
特別展観 「張耕源 書画篆刻作品」  
授賞式 六月三日(土)  
ANAクラウンプラザホテル神戸

■展覧会のご案内

第二十八回一隅會展

一月二十七日(金)〜二十九日(日)  
アートホール神戸(兵庫県学校厚生会館)

第八回 伍葉展

一月二十七日(金)〜二十九日(日)  
神戸・元町 みなせ画廊

※本年度の社中展等、開催予定がございましたら事務所までご連絡ください